

1 調査の目的

本調査は、区政に対する区民の意識や意向、評価などを把握し、今後の行政施策の検討・立案の際の基礎的参考資料として活用することを目的として実施した。

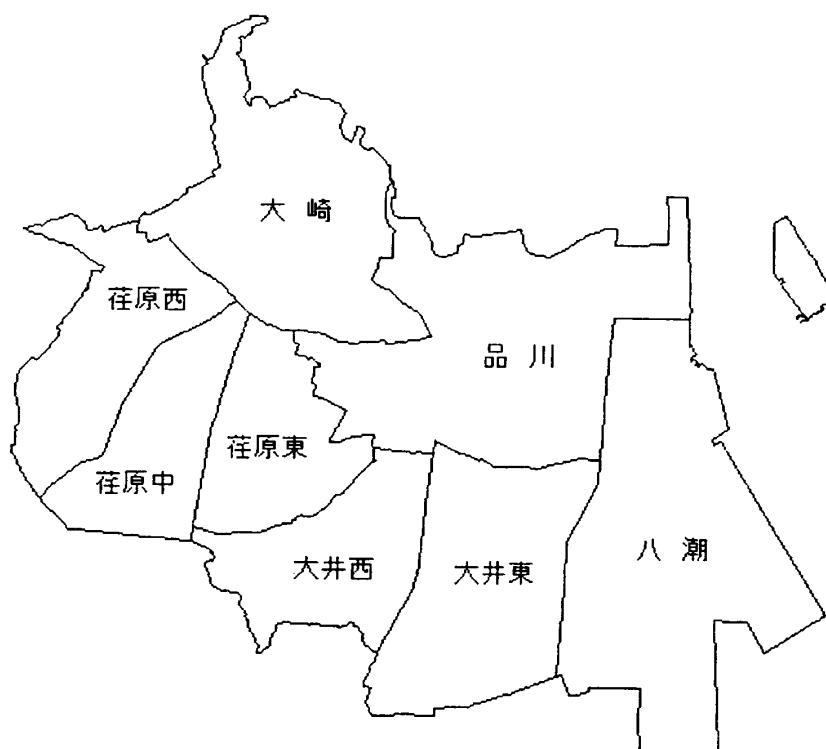
2 調査の内容

- 1 定住性について
- 2 生活環境について
- 3 重点施策について
- 4 防災について
- 5 広報と情報化について
- 6 区議会について
- 7 健康について
- 8 商店街について
- 9 ごみ・リサイクルについて
- 10 品川区長期基本計画について

3 調査設計

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | 品川区全域 |
| (2) 調査対象 | 品川区在住の満20歳以上の男女個人（平成24年6月1日現在） |
| (3) 標本数 | 1,500標本 |
| (4) 母集団 | 品川区住民基本台帳の満20歳以上の男女個人 |
| (5) 抽出方法 | 層化2段無作為抽出法 |
| ① 層化 | 品川、大崎、大井、荏原の4地域を基本に8地域に層化し、地域の人口比に応じて地点数を比例配分する。（合計150地点） |
| ② 地点抽出 | 無作為に決めたスタート点から等間隔抽出法により、地域ごとに地点を抽出する。 |
| ③ 対象者抽出 | 各地点とも最初の対象者から10人目ごとに10人を抽出する。 |
| (6) 調査方法 | 調査員による個別面接聴取法 |
| (7) 調査期間 | 平成24年6月30日～7月16日 |
| (8) 調査機関 | 株式会社 エスピー研 |

地域区分図



調査地域内訳

地域名	左記地域に包括される町（丁）名
品川	東品川、北品川、南品川、西品川、広町
大崎	上大崎、東五反田、西五反田、大崎
大井東	東大井、南大井、勝島
八潮	八潮
大井西	大井、西大井
荇原東	戸越、豊町、二葉
荇原中	平塚、中延、西中延、東中延、旗の台（2～5丁目）
荇原西	小山台、小山、荇原、旗の台（1・6丁目）

※参考：各地域の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合・平成24年6月1日現在）

各地域の高齢化率

	区全体	品川	大崎	大井東	八潮	大井西	荇原東	荇原中	荇原西
総人口（人）	355,572	63,514	57,574	44,373	12,334	43,200	41,337	44,568	48,672
65歳以上(人)	71,826	12,497	9,690	8,131	3,081	8,929	10,082	9,681	9,735
高齢化率(%)	20.2	19.7	16.8	18.3	25.0	20.7	24.4	21.7	20.0

4 回収結果

- (1) 標本数 1,500
 (2) 有効回収数 1,134 (有効回収率：75.6%)
 (3) 回収不能数 366

(4) 地域別回収結果

地域別回収結果

地域	20歳以上人口 (人)	構成比 (%)	標本数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
区全体	306,828	100.0	1,500	1,134	75.6
品川地域	54,151	17.6	270	198	73.3
大崎地域	49,882	16.3	240	158	65.8
大井東地域	38,402	12.5	180	128	71.1
八潮地域	10,672	3.5	60	38	63.3
大井西地域	36,719	12.0	180	137	76.1
荏原東地域	36,116	11.8	180	142	78.9
荏原中地域	38,894	12.7	180	147	81.7
荏原西地域	41,992	13.7	210	186	88.6

【追加分】

地域	20歳以上人口 (人)	構成比 (%)	標本数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
八潮地域	10,672	3.5	50	35	70.0

※八潮地域の追加標本について

八潮地域の正規標本数は60である。地域別分析で八潮地域を独立の地域として扱うには数が少ないので、更に50の標本を追加して調査した。

この標本は、地域分析のときに限って八潮地域の標本に加えて集計・分析したもので、区全体の集計表や地域別分析以外の分析（例えば性／年代別）には用いていない。

(5) 回収不能の内訳

回収不能の内訳

	全体	転居	不在	拒否	住所不明	その他
人数(人)	366	27	243	88	2	6
内訳(%)	100.0	7.4	66.4	24.0	0.5	1.6

5 集計にあたって

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示す。
- (5) クロス結果のグラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (6) 集計は、①単純集計、②回答者の属性とのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (7) 標本誤差(b)は次式で得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$\left\{ \begin{array}{l} N = \text{母集団数} \\ n = \text{回答者数} \\ P = \text{回答の比率} \end{array} \right.$

今回の調査結果の場合、誤差は下表のとおりであり、「ある設問の回答者数が1,134人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は、最高でも4.1%である」というようにみる。

標本誤差一覧表

回答の比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,134	±2.5%	±3.4%	±3.9%	±4.1%	±4.2%
1,000	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
800	±3.0%	±4.0%	±4.6%	±4.9%	±5.0%
600	±3.5%	±4.6%	±5.3%	±5.7%	±5.8%
400	±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
200	±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%

注) $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ として計算した。

6 分析にあたって

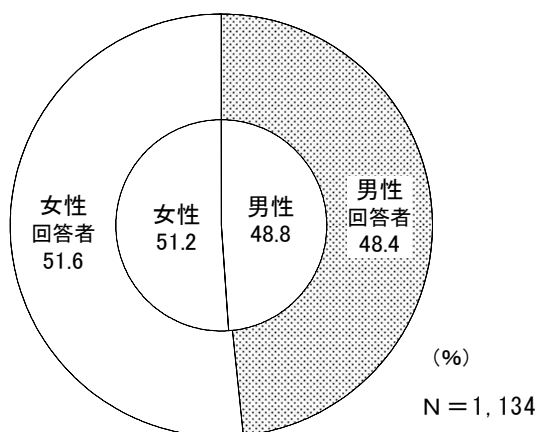
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) ライフステージの分類は以下のとおりである。
- A. 独身期 40歳未満の独身者
 - B. 家族形成期 40歳未満の子供のいない夫婦または一番上の子供が小学校入学前の人
 - C. 家族成長前期 一番上の子供が小・中学生の人
 - D. 家族成長後期 一番上の子供が高校・大学生の人
 - E. 家族成熟期 64歳以下で一番上の子供が学校を卒業している人
 - F. 高齢期 65歳以上の人
 - G. その他 40歳～64歳の独身者、40歳～64歳の子供がいない夫婦など

7 母集団との比較

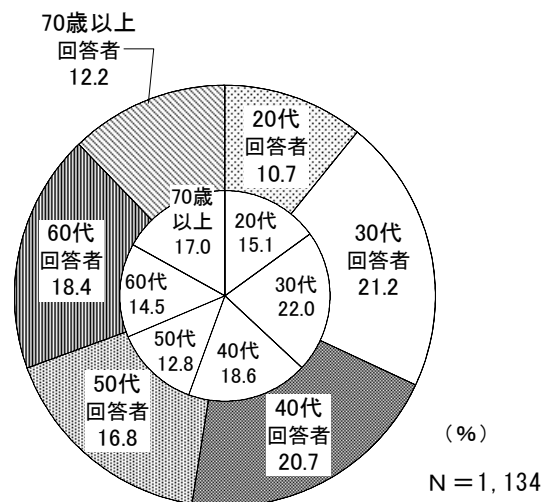
母集団（品川区住民基本台帳の20歳以上の男女個人）と比べると、調査回答者の性別では女性が0.4ポイント高くなっている。また、年齢では30代から60代の回答者がやや多く、20代、70歳以上の回答者がやや少なくなっている。

(注) 母集団は、品川区の総人口：355,572人（男性174,507人、女性181,065人）から、0歳～19歳人口：48,744人（男性24,842人、女性23,902人）を除いた人数となる。

(1) 性別



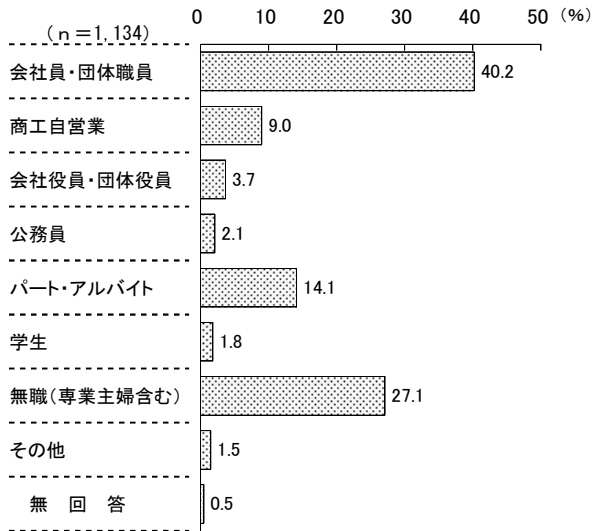
(2) 年齢



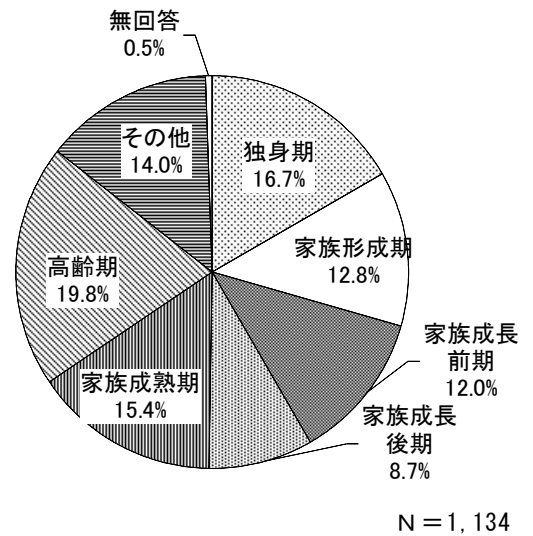
(注) 内円は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表している。

8 調査回答者の属性

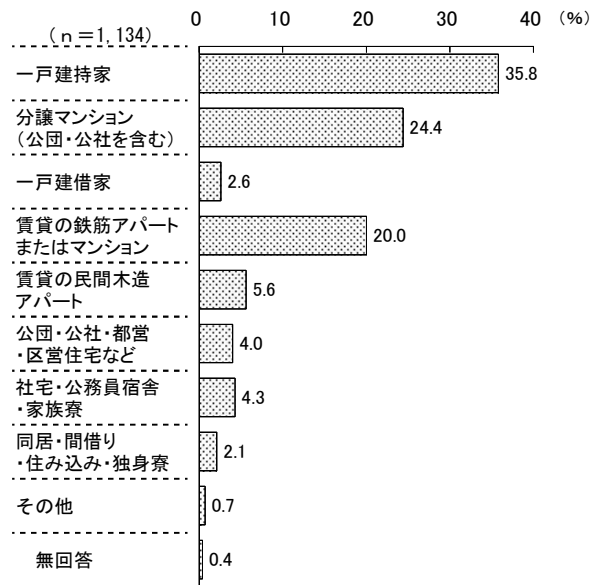
(1) 職業



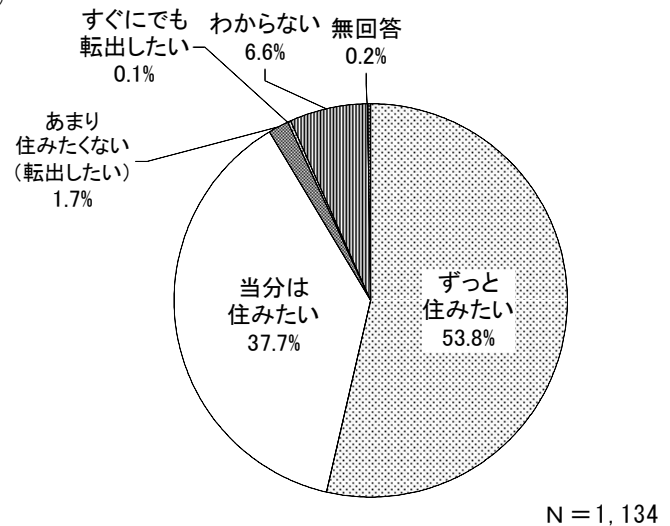
(2) ライフステージ



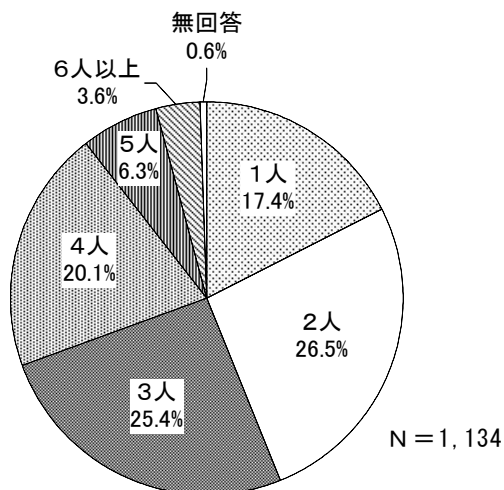
(3) 住居形態



(4) 定住意向



(5) 家族人数



(6) 町会・自治会への加入状況

